

■これまでのアクティビティ・マネジメント部会での主な意見

【全体】

- ・アクティビティに関することも環境保全優先に考えていく必要がある。
- ・「今のままが一番よい」という意見も大事にする必要がある。
- ・わかりやすい言葉で、魅力と改善するところを整理するなど、整理の仕方の工夫が必要である。
- ・目指すべき方向性については、誰がどのような体制で行っていくのか、今後明確にしていく必要がある。

【江津湖の魅力】

- ・江津湖で気軽に行うことができる運動をリスト化した“アクティビティスト”のようなものを作成すると、江津湖の魅力発信につながるのではないか。
- ・江津湖を利用したスポーツや健康に関するイベントの開催及び既存のイベントにおいて会場を江津湖にしてみてもよい。
- ・江津湖の生き物を対象にした水族館を整備し、子ども達が江津湖を知るきっかけをつくってはどうか。
- ・江津湖を観光資源として活かされていない。
- ・マナー問題への対応が必要である。

【公園経営】

- ・持続可能な維持管理システムが求められている。
- ・ネーミングライツを行ってトイレをきれいに保つ。
- ・“水”をアピールする上でマーケティングによるブランド化の視点が必要である。

【担い手】

- ・江津湖に関わる方々の組織化と人材育成が求められる。
- ・江津湖についてずっと考え続ける会社のようなものとプレイヤーが必要である。例えば大学で会社をつくって、そこから民間に営業をかけていくような仕組み。

環境保全優先

魅力の発掘と発信

維持管理システム

人的資源の連携

推進体制づくり

観光資源としての活用

資産ストック活用

担い手づくり

アクティビティ・マネジメント部会の基本的考え方（目指すべき方向性）

キーワード（視点）

①「魅力」と「質」の向上

②適切な公園経営・資産運用

③運営手法と担い手づくり

基本的考え方（１）：「魅力」と「質」の向上

- 恵まれた自然環境（水、花緑、動植物など）を実感できる生物多様性の豊かな公園づくり
- 地域資源（美しい景観、歴史、文化）の顕在化を図る
→公園の魅力発信
- 「利用者ニーズにあった公園運営」への転換を図る
- 利用者視点にたった公園サービスを提供する
- 観光客にアピールできる個性に磨きをかける
→自然環境に配慮した利活用の取り組みの実施
- 公園の質の評価を向上させていく仕組み（市民意見の反映）を構築する

公園の多機能性の最大化
「魅力・質」

基本的考え方（２）：適切な公園経営・資産運用

- 面積126haを有する江津湖公園を資産と捉え、この資産ストック効果をより高める
- 江津湖公園の持つポテンシャルを柔軟な発想で引き出す
- 民間との連携の加速による、都市公園の魅力向上を図る
- 民間活力を発揮、引き出しやすい環境を整備する（ガイドライン）
- 得られる収益を、維持管理費用、新たな魅力向上事業など、来園者のサービス向上につなげる

基本的考え方（３）：運営手法と担い手づくり

- 公園キャストの発掘、働きかけ、人材育成からキャストネットワークを拡大する
- 地域のエリアマネジメント組織による公園運営を行う
- 市民・事業者（民間）・行政の連携（知恵を絞る）による公園利用の幅を拡大する
- 市民・事業者（民間）・行政の連携した災害防災力を向上する
- 生物多様性に配慮した協働管理ルールを共有する

環境維持、向上

防災、防犯

景観づくり

まちの賑わいづくり
（イベント・アクティビティ）

情報の発信

コミュニティづくり

生物多様性の保全とともに、江津湖の持つポテンシャルを最大限に発揮し、
誰もが誇れる、上質な公園空間の創出を実現する。

